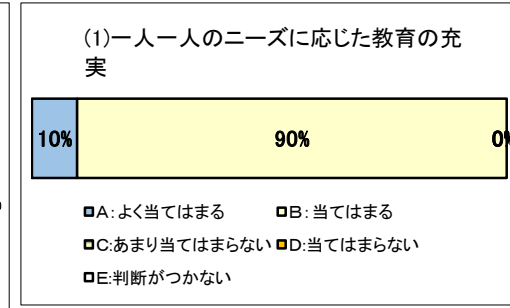
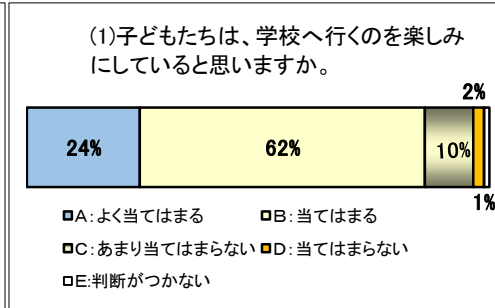
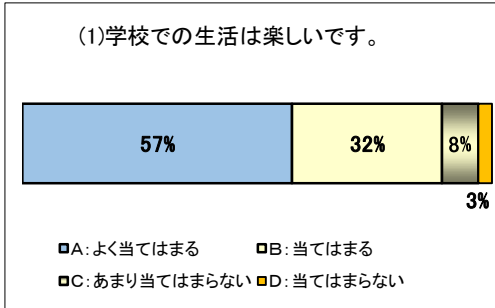


令和5年度学校評価「自己評価」参考資料 児童・保護者・教職員アンケート結果

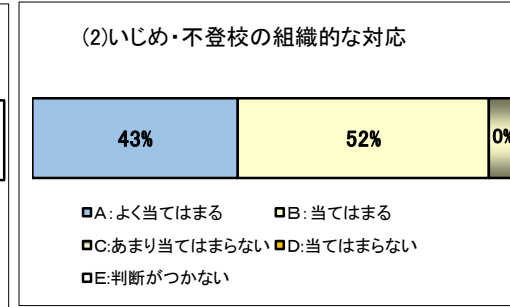
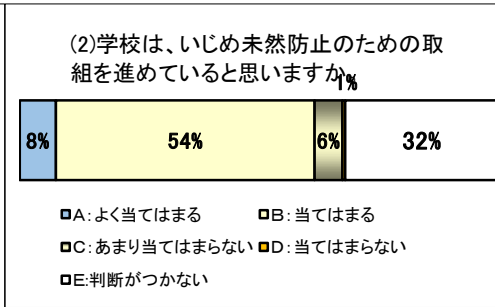
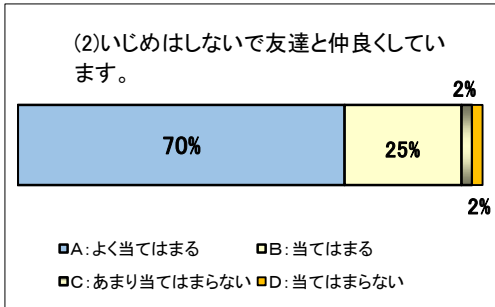
令和5年度 児童(回収率74.6%)

令和5年度 保護者(回収率66.9%)

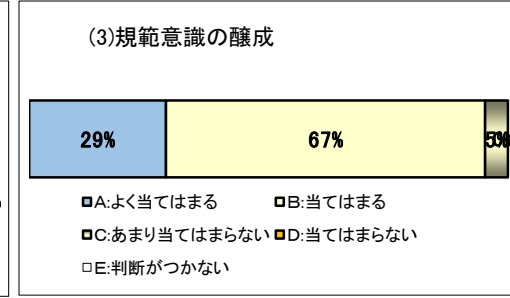
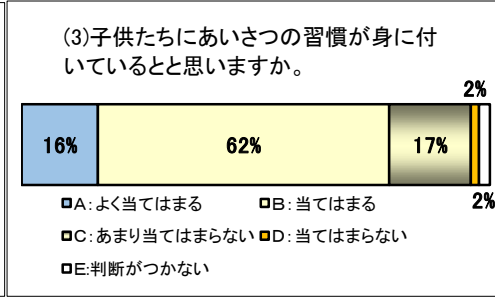
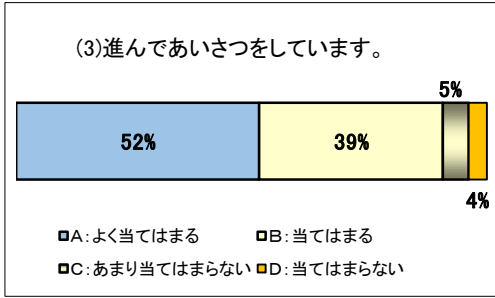
令和5年度 教職員(回収率87.5%)



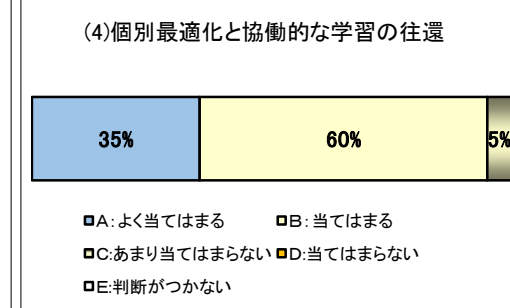
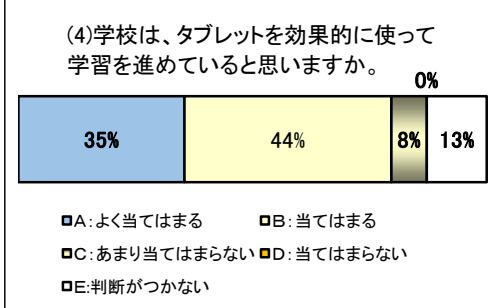
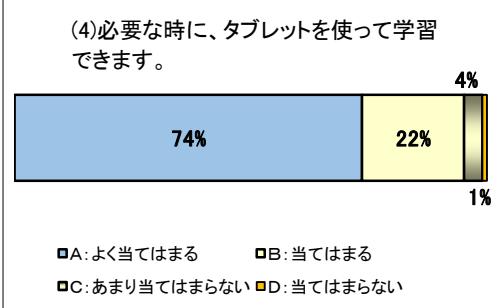
(1)児童、保護者の肯定的な回答が昨年度とほぼ同様です。否定的な回答1割強の児童の学校生活満足度を上げるために、その児童が何に対してマイナス感情を持っているのか、思いを汲み取り、問題点を考え、子どもたち一人一人のニーズに対応した教育の充実に努め、魅力ある学校づくりに努めます。



(2)教職員・児童の肯定的な回答が、95%以上と高い割合でほぼ一致しています。一方で、保護者の肯定的な回答は62%となっており、32%の保護者が「判断がつかない」と回答しています。いじめに関わる取組は日常的に数々実施していますが、アンケートの結果だけでなく「いじめ未然防止」に繋がる取組や活動を学校・学年・学級・生徒指導部だより・HPなどで伝えていきます。



(3)児童の肯定的な回答が91%となっているが、保護者の肯定的な回答は78%、教職員の肯定的な回答は96%と、児童・教職員の意識と、来校される保護者の感じ方に大きな差がありました。(教職員は『規範意識』という幅広い設問なので一概に比較はできないが。)玄関前を含む校舎内外での来校者への挨拶を進んでできる子どもたちを育てたい。



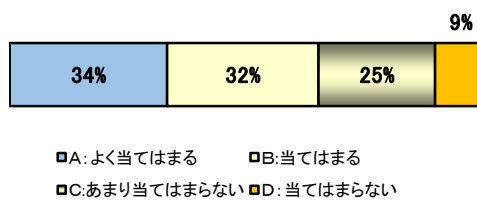
(4)児童の肯定的な回答が96%、教職員の肯定的な回答が95%となっている。どちらも昨年度より上回った。保護者の肯定的な回答は79%で、家庭への持ち帰りを実施したことで保護者の関心をよせてくださっていると考えられますが、「効果的に使って学習を進めている。」と判断するには難しいため、どのように効果的であるのかをお伝えしていく。

令和5年度 児童

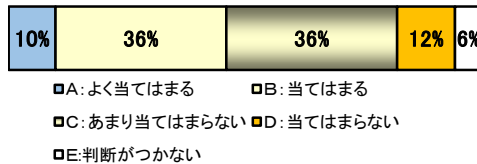
令和5年度 保護者

令和5年度 教職員

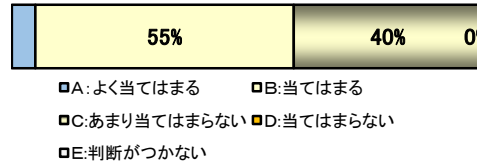
(5)進んで読書をしています。



(5)子供たちに読書の習慣が身に付いていると思いますか。

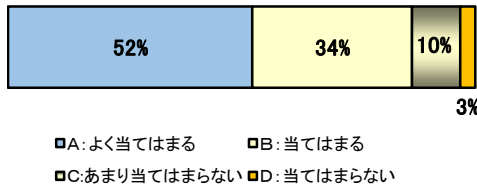


(5)読書習慣の定着

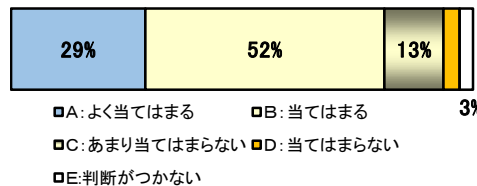


(5)肯定的な回答が、児童66%(昨年度は68%)、保護者46%(昨年度は54%)、教職員60%(昨年度は69%)となっており、他の設問と比較すると最も低くなっています。学校図書司書と協力して読書習慣が身に付くような取組を行っていく。

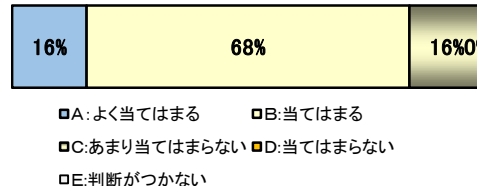
(6)家では、宿題や家庭学習を言われなくてもやっています。



(6)子供たちに家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。



(6)系統性を踏まえた家庭学習

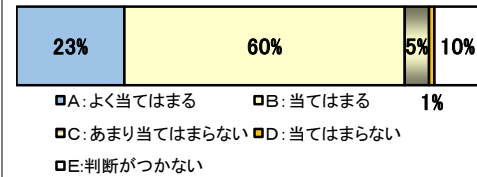


(6)児童の肯定的な回答が86%、保護者の肯定的な回答が81%、教職員の肯定的な回答は84%となっている。昨年度は教職員は92%で児童・保護者との差がありましたが、今年度は意識に差は見られません。家庭学習習慣の向上を目指しましょう。

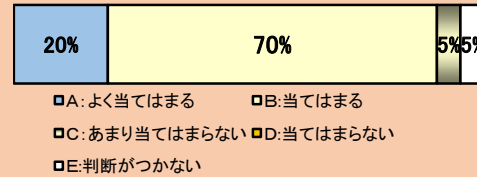
(7)「学習のやくそく」と「生活のやくそく」を守っています。



(7)子供たちは校内外のきまりを守っていると思いますか。

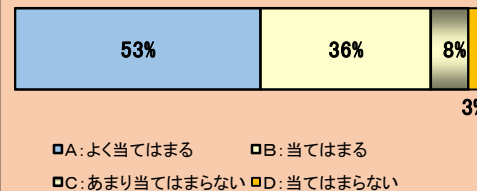


(7)発達の段階を踏まえた「学び合い」

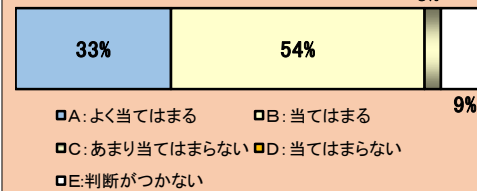


(7)児童の肯定的な回答が92%、保護者は83%、教職員の設問(3)規範順守では肯定的な回答が91%となっており、概ねきまりを守って生活できていることがわかります。今後も適切に善悪を判断できる児童を育てていきたい。

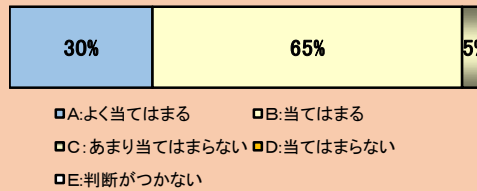
(8)授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいます。



(8)学校は、読み・書き・計算など基礎・基本が子供たちに定着するように指導していると思いますか。



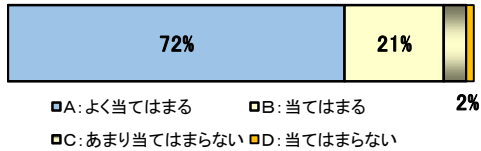
(8)主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善



(8)児童の肯定的な回答が89%、保護者の肯定的な回答が87%となっており、ほぼ一致しています。教職員も肯定的な回答の割合が90~95%となっており、児童、保護者の回答よりもやや高めですが、授業改善による成果は出ていると判断できます。これからも効果的に学習にとりくめるよう、授業改善を進めていく。

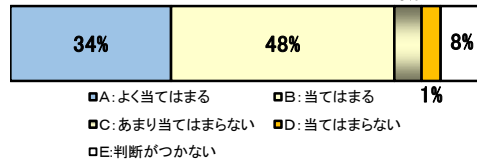
令和5年度 児童

(9)運動会などの行事や児童会活動、プロジェクト活動に、進んで取り組むことができます。



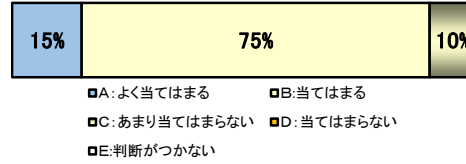
令和5年度 保護者

(9)運動会などの学校行事や児童会活動は、子供たちが意欲的に取り組める活動になっていると思いますか。



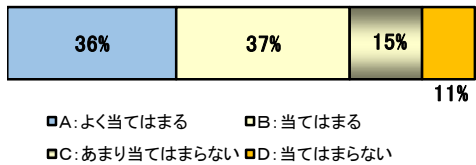
令和5年度 教職員

(9)プロジェクトによる学校行事と児童会活動

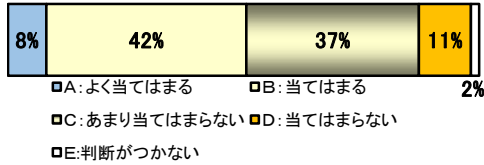


(9)児童の肯定的な回答が93%、保護者の肯定的な回答が82%、教職員の肯定的な回答は90%でした。運動会に関する保護者の意見が多かった。児童の異学年交流の意識を高めるためにも、来年度は学校全体で実施できる運動会を検討していく。

(10)家では、「早寝・早起き・朝ごはん」を守り、テレビやゲームなどの遊びの時間が長くないように気を付けています。



(10)子供たちは「早寝・早起き・朝ごはん」を守り、テレビやゲームなどの時間が長くないようにしていると思いますか。



(10)子供と向き合う時間の確保



(10)児童の肯定的な回答が、2年前から82%⇒78%⇒73%と下がってきている。保護者の肯定的な回答も2年前から60%⇒56%⇒50%と下降していることから、家庭生活のスタイルに変化が現れていることがわかります。生活の乱れ、またはゲームなどの時間が長くなっていることが考えられる。家庭と学校が協力して、メディアとの付き合い方、基本的な生活習慣の大切さについて児童に指導し

